Vol. 24

TOSHIN Hearing NEWS

2023 年 3 月発行

補聴器の全体満足度が 50%に大幅改善　～Japan Trak 2022 より～

2023 年 1 月に日本補聴器工業会から Japan Trak 2022 が発表されました。注目すべき項目の変化や特徴を報告いたします。

・難聴者率　前回 2018 年の調査と比較し 75 歳以上の伸びが最も高く 43.7%（前回 41.6%）で、全年齢での難聴者率は 10%で 16 ヵ国中※ 9 番目でした。難聴について最初に相談した医師は、耳鼻科医師が 81%、かかりつけ医師が 19%であり、耳鼻科医師が微増、かかりつけ医が微減となりました。しかし補聴器購入に関して医師に相談した難聴者は 38%で前回の 42%から微減となり、耳鼻科医師に相談した補聴器非所有難聴者（難聴またはおそらく難聴だと思っている人）の中で 10%が補聴器を処方され、9 %が販売店を紹介され、いずれも前回調査から微増でした。

・補聴器の所有率　前回調査の 14.4%から 15.2%に若干増加しましたが、依然として調査 16 ヵ国中で中国に次ぐワースト 2 位で 1 位はデンマークの 55%でした。

・両耳装用　43%（前回 45%）で著変なしでしたが、1 位のベルギーが 83%で、日本はワースト 3 位。補聴器を片耳だけ装用している人の多くは両耳に補聴器を装用しても効果は同じと思っており、啓発不足が課題となっております。

・補聴器の満足度　補聴器の全体満足度が前回調査 38%から 50%に大幅改善しましたが、調査 16 ヵ国中では最下位で、韓国（57%）以外の 14 カ国は 70%以上となっています。1 位は中国の 92%。補聴器所有者の 67%は補聴器が期待していた通り、あるいは期待していた以上に良く動作しているという印象を持っており、認定補聴器技能者にフィッティングを受けた難聴者の満足度は 64%（前回 39%）で、非技能者にフィッティングを受けた難聴者の満足度は 51%（前回 42%）で、いずれの場合も満足度は前回調査より向上しています。

・補聴器から得られる良い影響に関して　安心感、会話のしやすさ、自分自身の気持ちにおいて改善が見られ、補聴器所有者の 97% は補聴器により、生活の質 (QOL) が 向上していると述べており、補聴器所有者の 77%が車の音や周囲の環境音が聞こえ、街中でより自信をもって行動できるようになり、仕事を持っている補聴器所有者の 90%は補聴器が仕事上で役に立っており、初めて補聴器を使用した際に 51%の方がもっと早く装用しておけばよかったと感じています。また、PHQ-2 スクリーニングにおけるうつ病罹患リスクについて、「とても低い」が補聴器所有者の 63%に対し、補聴器非所有難聴者は 32%となっており、「とても高い」も、それぞれ 2%と 10%になっていることから、補聴器所有者は補聴器非所有難聴者に比べ、うつ病罹患リスクが低い。

・難聴と関連していると思う健康問題について　前回調査で 2 位（14%）だった認知症が 1 位（18%）となりました。難聴が健康問題に関係していると思わない方は 56%（前回 61%）に下がっており、難聴により健康状態が悪化すると感じている人が増えたことになります。

・認定補聴器技能者、認定補聴器専門店の認知度に関して　難聴者が認定補聴器専門店という名称を知っていると回答した割合は 21%で、認定補聴器技能者という名称を知っていると回答した割合は 14%となり、いずれも全 4 回の調査中、最も低い値でした。しかし「補聴器販売店が住まいの近くにあるか」という問いには補聴器非所有者の 45%が「はい」と答え、前回調査の 38%から増加しました。

Source: Anovum – JapanTrak 2022

※調査国と調査年　デンマーク(2022)フランス(2022)ベルギー(2021)スイス(2018)イタリア(2022)ポーランド(2019)ニュージーランド(2022)スペイン(2020)ドイツ(2022)オーストラリア(2021)オランダ(2022)イギリス(2022)ノルウェー(2018) 中国(2020)韓国(2021)日本(2022)

目次

1　補聴器の全体満足度が 50%に大幅改善　～Japan Trak 2022 より～
2　補聴器の認知症抑制に関する論文が続々発表
3　2022 年国内補聴器出荷台数
4　店舗紹介　高松店移転

Japan Trak とは

アノバム社（スイス・チューリッヒ市）が一般社団法人日本補聴器工業会の代理として設計、実施し、公益財団法人テクノエイド協会の後援と EHIMA（欧州補聴器工業会）の協力を得て、我が国における一般の人々が聞こえの不自由さ（難聴）や補聴器についてどのように考えているか、補聴器の使用状況はどうなっているかなどについて調べる大規模な実態調査。2022 年版は過去 3 回（2012 年、2015 年、2018 年）の調査と同様に実施されました。

その目的は、我が国における聞こえと補聴器を取り巻く現在の諸問題を抽出し、欧米諸国の一部同様なデータとの比較も行ないつつ、全難聴者の生活の質（QOL）の向上に寄与する対策を検討し提案することにあり、その調査結果は現在日本で最もスタンダードに用いられています。今回の代表サンプルの基数は 14,061 人で、難聴者の基数は 1,351 人。

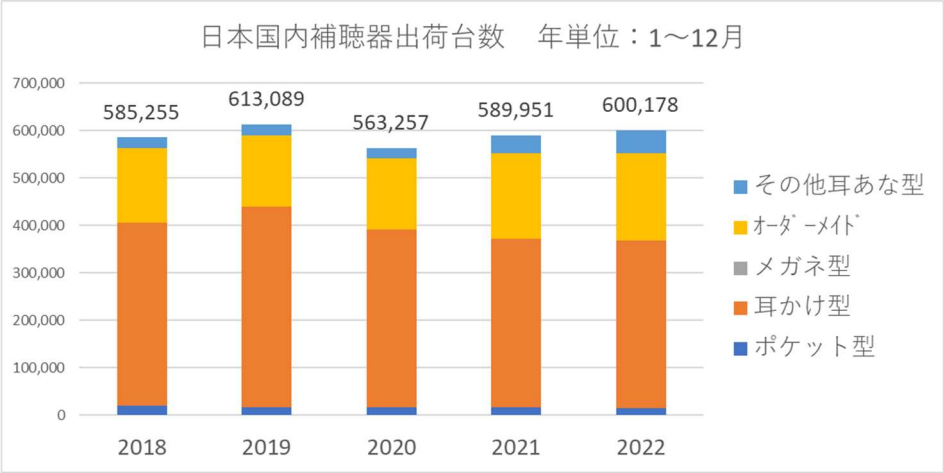
補聴器の認知症抑制に関する論文が続々発表

2017 年 7 月の国際アルツハイマー病会議でランセット国際委員会が難聴を認知症の危険因子のひとつとして数え、2020 年に「予防可能な 40%の 12 の要因の中で、難聴は認知症の最も大きな危険因子である」という指摘がなされて以降、日本国内でも「Japan Hearing Vision」がまとめられ、難聴に対する早期介入が提言されるなど、難聴に対する社会的関心は高まり続ける一方ですが、海外では補聴器と認知症に関する研究論文が次々と発表されています。シンガポール国立大学の Brian Sheng Yep Yeo 氏らは、補聴器や人工内耳の認知機能に対する影響を研究し、「補聴器の使用は難聴者の長期的な認知機能低下リスクを 19%減らし、短期的にも認知機能テストのスコアを 3%改善していた」と結論をまとめました。また、ジョンズ・ホプキンズ・ブルームバーグ公衆衛生大学院の Alison R. Huang 氏らは 65 歳以上の 2,413 例を対象とした研究の中で「中等度・重度の聴覚障害者（500、1,000、2,000、4,000Hz の平均聴力 40dB 以上）は正常聴覚者より認知症罹患率が高かったが、補聴器使用者は非使用者に比べて認知症罹患率が有意に低かった」と発表しています。※

近年の研究では難聴による音刺激の減少や脳への情報伝達量の低下が脳の萎縮や神経細胞の弱まりをもたらし、認知症に影響していると考えられています。その他にも、コミュニケーションが困難な状況になることによって社会活動への消極的な姿勢や抑うつ状態をもたらすリスクについても指摘されています。パドヴァ大学の Claudio Barbiellini Amidei 氏らの研究によって高齢期に入ってからの身体活動（ウォーキング、釣り、水泳、ダンス、ジムなど）はその後の健康の維持にとって重要であることを示すデータが報告されており、この報告を受けて米カリフォルニア大学ロサンゼルス校の Gregg Fonarow 氏は「どのような年齢であっても、身体活動から健康上のメリットを得ようとする時、スタートが遅すぎるということはない」と述べています。超高齢化社会を迎える我が国にとって健康寿命の延伸は喫緊の課題であり、補聴器の有用性に対する期待は今後も高まっていくものと考えられます。

※中等度／重度の聴覚障害者 853 例のうち、加重認知症罹患率は補聴器使用者が 11.46%、補聴器非使用者では 21.53%だった。研究は年齢、性、人種・民族、教育レベル、喫煙状況、併存疾患なども加味されて行われている。

2022 年国内補聴器出荷台数

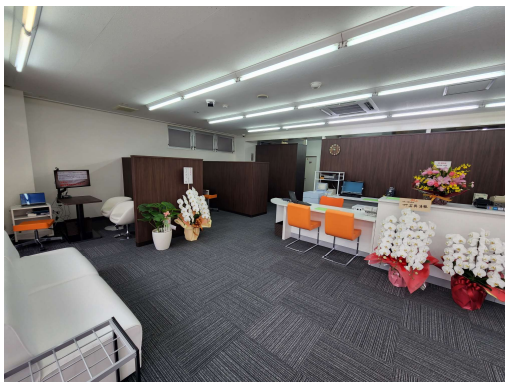


2022 年 1 年間に日本補聴器工業会加盟メーカーが国内向けに出荷した台数は 600,178 台となり、前年比 101.7%と順調に推移しておりますが、未だ 2019 年の台数に回復しておりません。

コロナ禍以降、マスク常用の影響で耳あな型の需要が増え続けており、特にその他耳あな型（既製品の耳あな型）補聴器は前年比 128.9%と大きく数字を伸ばしております。

店舗紹介　トーシン・高松補聴器センター　2022 年 12 月 6 日　移転オープン

高松店が皆様に快適な空間でご利用いただけるよう、店舗拡張、利便性向上のため高松市役所西側県庁前通り沿いの 1 階へ移転し、2022 年 12 月 6 日 にオープンいたしました。



住　所　：　〒760-0017
香川県高松市番町 2-4-35 ル・ポール番町 1 階
TEL 087-822-7041　FAX 087-822-7857

営業時間　：　午前 9 時～午後 5 時

定 休 日　：　日曜・祝日・第 2 土曜日

TOSHIN Hearing NEWS 発行元

東神実業株式会社
トーシン・補聴器センター

本社：〒550-0005　大阪市西区西本町2-4-7
TEL：06-6531-2541　FAX：06-6531-3398
URL：https://www.toshin-ha.co.jp/

be heard
Toshin